（第三種郵便物認可）　2005年（平成17年）10月6日（

語る「巨大与党」

田中弘邦・
大樹全国会議会長

自民以外 支援の可能性も

——衆院選で自民党が大勝し、郵政民営化関連法案が成立する公算となった。

「考えていたより自民党の議席が大きく伸びた。小泉首相は、単純明快にものを言ったのが国民に受けた。戦前・戦中から郵便局が国民に貢献してきたことが全く評価されず、悪い点ばかり強調された。国民がそれほど勉強して投票したとは思えない」

——国民の多くが民営化を支持したのではないか。

「民営化の方向は国民が認めたことになるのだろう。それが良かったか悪かったかは、後世に国民自身が判断することだ。ただ、野党を含めた法案への反対派候補の総得票数が（小選挙区で）賛成派の総得票数を若干、上回った。だから、必ずしも民営化全体が容認されたことにはならない」

——自民党の反対票組の多くは賛成に転じる姿勢だ。

「政治の世界なので、先生方の気持ちも分からなくはない。目先だけでなく、先行きの政治活動で自分をどう位置づけるかという判断もある。反対した先生方は『中身がまずい』と言ってきたので、賛成しても、中身を無条件で認めたわけではないと思う。民営化までは長丁場なので、今後も細かい点でいろいろと意見を述べてもらえるだろう」

——今後、自民党支援を根本的に見直す考えは。

「今までのような全力投球の支援は問題があるのではないか。我々はあくまで、郵政事業について政治に働きかける組織だ。自民党が大好きだから支援しているわけではない。国民の利益を実現する手段として与党の自民党を使ってきた」

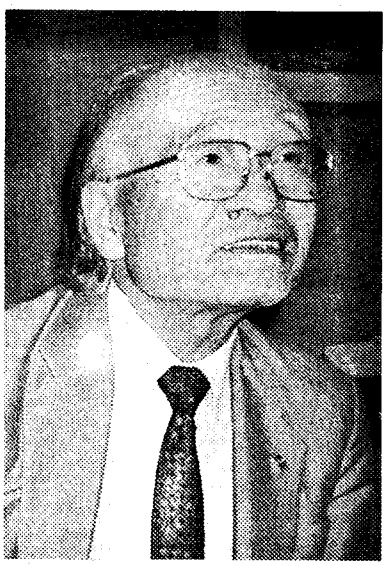
——他党を支援する組織を新設する可能性は。

「もちろんある。大樹は自民党の職域支部と100%重なっていた。軸足を他党に移すかどうかは、これから議論する」

——自民党の職域支部を解散・縮小する考えは。

「そんなに簡単に解散にはならないのではないか。自民党にも我々の主張を分かってくれる議員もおり、要請に行ける形は残しておいた方が良い。（選択肢には）含まれるが、どういう形にするかは未知数だ」

——2年後の参院選に組織内候補を擁立するか。

「郵政民営化を見届けるために、我々を代表する国会議員は必要だ。組織内候補でなくても、我々の意を体する人であれば誰でもいい。（衆院選で落選した反対票組も）当然、考えてもいい。組織が劣化したとはいえ、本気になれば100万票くらい獲得する力はある」

（聞き手　東武雄）